

双方向学修をめざす「時事問題」授業の展開 ～短大生のクラス参加を積極的にさせる試み～

蔵谷哲也

四国大学短期大学部ビジネス・コミュニケーション科

1. 要約

本報告は短期大学部シラバスに記載される1年生向け前期開講の「時事問題」の5つの到達目標達成のため、どのような手法を試みて、どんな状況であるかを報告することである。

この活動の意義とは、1) 新聞記事の穴埋め問題により新聞記事と教科書をより熟読させることができたこと。2) 発表事前コメントによる質疑応答の準備によるプレゼンの品質向上、プレゼンテーションにより、時事問題に対する理解の深化と記憶強化が多少なりともなされたこと。3) 質疑応答の機会を以前より増加させたことである。

2. 講義ではなく学生によるプレゼンテーションによる理解の向上

学生のプレゼンファイルは前日までに掲示板にアップされ、発表前にクラスで自由にダウンロードできるようにしてある。

プレゼンに含める項目は以下のとおり：

①教科書の定義：専門家の定義を引用することで、取り扱う領域を正確につかむことと、教科書を読ませるために引用させる。

②最近の動向：教科書は2021年12月発行なので、2021年10月から現在に至るまでの状況を記載する

③事例：陳述には根拠が必要であるため、根拠として例を挙げる

④コメント：主題に関する個人的見解を明らかにする

⑤その他：その他に関心があることも発表してよい

⑥出典：規定に従って、正確に提示する。

3. 新聞記事と教科書をより熟読させる仕組み

教科書『日経キーワード 2022-2023』には500以上のキーワードがあり、この中から、学生は1つのキーワードについてプレゼンテーションを行う。

すると、学生は担当部分のキーワードの発表準備はするが、他の学生の担当部分を読まない。つまり教科書をしっかり読まないことが予測される。

そこで、教科書と新聞を学生に読ませる工夫をした。マナビコースの小テストの機能を使い、他のキーワードに関する新聞記事の文章の穴埋め問題を課した。選択肢は教科書にある500のキーワードの一つである。問題文は実際の新聞記事なので、学生は担当以外のキーワードに関して教科書と新聞記事の両方をしっかり読まないと、正解にたどりつけない。

4. 掲示板によるコメント

プレゼンテーションの後で口頭の質疑応答の時間を持っている。しかし、コメントを学生に呼びかけても誰も呼びかけに応じない。教員のみが口頭コメントをすることになりがちであった。

そこで、各プレゼンテーション終了後、プレゼンのファイルが添付される掲示板に、クラスの他の学生全員が文章によるコメントを付けるようにさせた。

5. 発表事前コメントによるプレゼンテーション品質の改善

プレゼン後にコメントを学生にさせると、コメントの内容が感想になってしまい、質疑応答の練習に全くならない。そこで、プレゼンテーション

を行う1週間前に、クラスの学生が事前に掲示板にアップされたプレゼンファイルを見て、掲示板にコメントを付けさせることにした。特にコメントには質問を含めるように指導し、プレゼンを行う学生が事前に受けた質問の答えを含めてプレゼンを行うようにした。

6. 口頭によるコメントを増やす工夫

プレゼンが口頭で為された後で、クラスの学生にワイヤレスマイクをバトンのように回すことによって、プレゼン後の口頭コメント数を増やすことを試みた。1プレゼンテーションごとに2人にコメントをさせていたが、時間に余裕がある場合は、3～4人にマイクをバトンのように回し、コメント数を増やした。

7. 改善するべき点

時事問題のあるキーワードについてプレゼンテーションを学生にさせ、以下のシラバスにおける到達目標をめざした。ここでは各到達目標に対して改善するべき点を以下に指摘したい。

1) 最新の時事問題を学習し、筆記試験での得点を向上できるようになること

☛ 授業時期開始前と授業時期終了後にランダムテストを行い、どの程度点数が変化したか検証しなかった。

2) 情報を項目でまとめて整理し、効率的な発表の工夫ができるようになること

☛ 項目名とコンテンツの内容が合致していないとか、ネット記事のコピペと思われる内容もあった。

3) 質疑応答の際に、参加者全員が学べる有益な質問やコメントをすることができるようになること

☛ 発表に対する社交辞令的コメントが数多くみられたので、質疑応答では感想に加えて、質問も含めるように指導した。

4) 質疑応答で十分な対応ができない場合は、回答できるように調査して、1週間以内に返答でき

るようにすること

☛ 一部の学生は質疑応答に対する返答をしたが、返答しない学生もかなりあった。

5) 特定のテーマに関連しているが埋もれている重要事項を指摘し、その関係を説得力を伴って指摘できるようになること

☛ 潜在的に関連する重要事項の発掘はほとんどなかった。しかしながら、この到達目標は、短大に入学したばかりの人達に期待することは、過度な要求であったと思う。

8. 付録（時事問題シラバスの抜粋）

概略：

参加者全員が授業毎に重要テーマについて時事問題のプレゼンテーションをする。

その後、質疑応答をして、時事問題の内容をより深く理解する。

発表・質疑応答を通して、主題や主題に関わる諸問題を考察し、理解を深める。

学生へのメッセージ：

レポート作成には少なくとも2つ以上の異なる資料を読み、より多くの情報に基づくレポートを作成すること。そのために、できる限り情報源に最も近い情報をレポートの基礎に置くこと。

十分授業参加の準備をしてからクラスにくること。

言葉の意味を暗記しただけでは本当の理解とは言えない。しっかりと身につけるには、その言葉を使って話しをするのが一番よい。話しをしているうちに考えがまとまったり、相手の話しを聞くだけで意味が理解できることがある。

ニュースの言葉をプレゼンテーションすると、論理的思考力やコミュニケーション能力が強化されるであろう。

各プレゼンテーションの後の質疑応答で発表の内容に関する建設的コメントをすること。

質疑応答で答えが十分できなかった場合は、調べて次回の授業までに調査して、マナビコースの掲示板に補足説明・修正等として、掲示すること。